

切削フォーラム 21 タイ企業視察訪問

中国プロジェクト 山崎 智裕

去る11月17日～11月22日の6日間「切削フォーラム21※」主催のタイ企業視察訪問ツアーに参加してきました。参加企業様は28社30名に上りました。

ツアー目的として「自動車部品等の世界的生産拠点であるタイ国において、将来的に現地工場の立ち上げや現地法人化を考えられている企業向けにタイ国の関連企業視察や現地調査を行う」というものでした。

その中で部品製造メーカー、工具メーカー、工作機械メーカーの3社の工場見学を行い、ジェトロ（日本貿易振興機構）タイ事務所でタイの状況や情報交換を行いタイ最大の工業展示会である「METALEX2013」（日本でいうところのJIMTOF）を見学してきました。

見学工場

- ・ **SNC COOLING SUPPLY**
（プラスチック成型～配管・パイピング溶接、コンプレッサー部品など製造 売上 250 億円 従業員 2500 名規模の大企業）
- ・ **TOPTECH DIAMOND TOOLS**
（上記SNCのグループ企業でダイヤ工具メーカー）
- ・ **ANCA（工具研削盤メーカー）**

各工場とも5Sがしっかりしており、日本のトヨタのカンバン方式を取り入れている企業も見受けられ日本企業に対してリスペクト精神を持っていると2社の会長が話されていた。

また「カイゼン」の意識も高く、工場見学中にも参加者に対し気付いた点は「どんどん指摘して欲しい」と会社をよくしたいという精神が見受けられた。

現在は日本人アドバイザーの力を借りて操業しているが、彼らが独自で考え、発展していくことを考えると日本企業の脅威となるのはそう遠くない未来であると考えられる。

タイの状況や所感

タイの自動車産業の状況については約2350社、従業員52万の規模を誇る2次・3次サプライチェーンがあり、インフラ（設備の整った工業団地、大規模な空港、舗装された主要道路、安定した電力供給等）も整備されており日本企業が出ていくだけの下積みが十分できている。

タイの自動車生産台数は2012年に245万台を達成し、世界第9位の生産国へ世帯当たりの自動車普及率として日本は86.5%と頭打ちに対し、タイは13.8%と市場拡大の余地が大きい。

またインフラ整備推進のための2兆円（約6.8兆円）プロジェクトと呼ばれる政策が3月に発表され今後7年間で大規模なインフラ整備が行われ、ますます発展していくことが予想される。

これらからもわかるようにタイの市場としての魅力は大きく、今後も日系はじめ先進諸国の進出は増えるだろう。

最後に参加企業の社長が話されていたことで、「中国はじめ、アジアの企業と敵対するのではなく協力していかなければ日本企業は徐々に衰退していくだろう。」これはまさにその通りであると考えさせられるツアーであった。

※切削フォーラム21とは切削加工に関わる全ての業界関係者が自由に参加、情報交換できる集まり。工具・工作機械・砥石・部品各メーカー、再研磨業者、機械工具商社など幅広く参加している。